

上黒瀬小授業モデル

～一人一人の児童の学力を最大限に伸ばすために～

◇学習環境について◇

<整理整頓>

◇整然とした環境にし、その時間に必要でないものを掲示したり、書いておいたりしない。

<掲示物>

◇前面の掲示物は必要最小限にとどめる。(必要なことに児童の注意を向けさせるため。)

◇その日の学習予定を丁寧に書くか、教科カードをはる。(見通しをもって学習できるようにするため。)

<机の並び>

◇通常一斉学習では、指導者と児童が正対するように机を配置する。
発達段階に応じてパーソナルスペースをとる。

◇授業前の指導について◇

<整理整頓>

◇机上には、その時間に必要な最小限度の物のみを置かせる。

◇机の横のフックは、巾着袋程度に使用し、ロッカーに片づける。

◇机の背もたれに服をかけさせない。→ ロッカーに入れる。

<身だしなみ>

◇服の袖から手が出ていない、シャツ出しやボタン外れ、シューズのかかとふみ等について、きちんと点検・指導してから授業を始める。

<姿勢>

◇両足の裏を床に付け、背筋をぴんと伸ばし背もたれにもたれないようにする。

立腰(りつよう)



チャイムで始め、チャイムで終わる。
指示は簡潔に、ゆっくり・はっきり。
発問・指示・説明は敬体(～です。～ます。)で。

◇授業について◇

<授業始め>

◇日直は教卓前に出て号令をかける。

〔授業始まりのあいさつ〕

「姿勢。これから、○時間目の○○の学習を始めます。」(はい。)

「先生と目が合っていますか。」(はい。)

「礼。」(お願いします。)(礼をする)

「立腰」

「瞑目」

*落ち着いた雰囲気、静かに授業を始める。

導 入	<p>◇授業の始めに、本時の学習の見通しを持たせる。</p> <p>◇問題解決的な学習を仕組む。</p> <p>◇本時の目標（めあて）を明確に板書する。学習のポイントが分かるようにする。（短冊黒板を活用するとよい。）</p> <p>◇板書計画を立て授業を行う</p>
展 開	<p>◇課題・方法等を選択・決定する場を設ける。</p> <p>◇一人で調べ考え判断する時間を設ける。 ⇒ノートに自分の考えを書く時間を確保する。</p> <p>◇机間指導の時間を必ず設け、個々に学習理解等の様子を把握し指導する。</p> <p>◇個人・グループ・全体学習等、学習形態を工夫し、他者に学ぶ場を設ける。</p> <p>◇授業の中に、できるだけ学習の隙間を作らない。 ⇒一つの学習を終えたら、次にすることを明示。 ⇒〇つけのために児童を並ばせない。 ⇒個に応じた問題を準備する。 ⇒一部の児童の発表だけで授業をしない。</p> <p>◇指導過程の工夫・意図的な指名により全児童が発表・活躍できる授業づくりをする。 ⇒教師自ら児童の意見を大切に示す姿勢を示す（誤答の扱い・ネームプレート等の活用） ⇒発言をつなげ、集団での学び合いとなる場を設ける。 ⇒対立・多様な考えを生む発問等を工夫する。 ⇒つぶやきを積極的に取り上げて全児童に発表のチャンスを与えるようにする。 ⇒承認・賞賛・励ましの言葉がけを積極的に行う</p> <p>◇他者の発言や作品のよさに気づき学ぼうとする態度を育てる。 ⇒発表する人は、児童の中心の方向を向いて話す。 ⇒聞く人は、発表者の話を最後まで聞く。 ⇒発表をする時、児童間で、意識的に名前を言わせる。 （例）「～くんの考え方について…」 「～さんの意見に付け加えて…」</p>
ま と め	<p>◇学習を振り返り今後の学習について考える場を設ける。</p>

<授業終わり>

〔授業終わりのあいさつ〕

「姿勢。これから、〇時間目の〇〇の学習をおわります。」（はい。）

「先生と目が合っていますか。」（はい。）

「礼。」（ありがとうございました。）（礼をする）